

編成

川崎市の消防団(8消防団28分団)

団 名	分 団 名
臨港消防団	第1分団・第2分団・第3分団
川崎消防団	第1分団・第2分団・第3分団・第4分団・第5分団
幸 消 防 団	第1分団・第2分団・第3分団・第4分団
中原消防団	中原分団・大戸分団・住吉分団・玉川分団・丸子分団
高津消防団	高津分団・橘分団・作延分団
宮前消防団	宮前分団・向丘分団・野川分団
多摩消防団	稲田分団・生田分団
麻生消防団	麻生東分団・柿生分団・東柿生分団

中原区 (平成27年7月1日現在)
人 口 247,256 人
世帯数 124,460 世帯
面 積 14.74 km²



中原消防団の編成(5分団19班 定員265名)

平成27年7月1日現在

団本部	分団(定員)	班(定員)	器具置場	受持区域とその人口
中原消防団本部 団長 (1) 副団長 (2) 庶務部長 (1) 警護部長 (1) 消防部長 (1) 広報部長 (1) 団本部室 中原区新丸子東 3-1175-1 (中原消防署内)	中原分団 (45)	小杉東班 (13) 小杉西班 (13)	小杉器具置場 小杉御殿町 1-940-15	【小杉町1丁目】2,319【小杉町2丁目】2,212 【小杉町3丁目】3,946【小杉陣屋町1丁目】2,758 【小杉陣屋町2丁目】1,915【小杉御殿町1丁目】1,675 【小杉御殿町2丁目】4,351【等々力】409
		宮内班 (19)	宮内器具置場 宮内 2-26-39	【宮内1丁目】2,377【宮内2丁目】2,637 【宮内3丁目】4,170【宮内4丁目】3,289
	大戸分団 (50)	大ヶ谷戸班 (12) 新城班 (12)	上小田中器具置場 上小田中 3-3-19	【上小田中1丁目】5,456【上小田中2丁目】5,988 【上小田中3丁目】5,808【上小田中5丁目※】2,008 【上新城1丁目】1,483【上新城2丁目】1,355 【新城1丁目】1,049【新城2丁目】1,084 【新城3丁目】676【新城4丁目】460【新城5丁目】816 【新城】179【新城中町】1,760【下新城1丁目】1,513 【下新城2丁目】1,688【下新城3丁目】1,943
		神地班 (10) 下小田中班 (16)	下小田中器具置場 下小田中 2-9-3	【上小田中4丁目】—【上小田中6丁目】5,670 【上小田中7丁目】1,999【上小田中5丁目※】2,008 【下小田中1丁目】4,012【下小田中2丁目】5,207 【下小田中3丁目】4,902【下小田中4丁目】3,821 【下小田中5丁目】2,287【下小田中6丁目】4,668
	住吉分団 (69)	木月西班 (11) 井田班 (16) 今井班 (10)	木月器具置場 木月祇園町 17-5	【木月1丁目】2,556【木月3丁目】5,844【木月祇園町】2,127 【木月伊勢町】1,600【木月大町】2,655【今井上町】3,322 【今井西町】4,299【今井仲町】3,691【今井南町】4,820 【井田杉山町】3,943【井田三舞町】3,737【井田中ノ町】5,776 【井田1丁目】3,130【井田2丁目】2,235【井田3丁目】3,040
		木月東班 (10) 市ノ坪班 (12) 荏宿班 (10)	市ノ坪器具置場 市ノ坪 362	【木月2丁目】2,818【木月4丁目】6,650【木月住吉町】4,205 【市ノ坪】8,732【荏宿】5,277【西加瀬】1,894 【大倉町】—
	玉川分団 (47)	上平間班 (15) 中丸子班 (16)	平間器具置場 北谷町 78	【上平間】10,405【北谷町】2,454【田尻町】1,999 【中丸子】14,800【小杉】—
		下沼部班 (16)	下沼部器具置場 下沼部 1745	【下沼部】4,630
	丸子分団 (47)	丸子東班 (20) 丸子中班 (16) 丸子西班 (11)	丸子器具置場 新丸子東 1-821	【上丸子八幡町】2,258【上丸子山王町1丁目】2,159 【上丸子山王町2丁目】1,882【上丸子】— 【上丸子天神町】2,628【丸子通1丁目】3,712 【丸子通2丁目】2,460【新丸子町】2,960 【新丸子東1丁目】1,957【新丸子東2丁目】2,127 【新丸子東3丁目】5,988

※上小田中5丁目は9～14を上小田中器具置場、1～8は下小田中器具置場が受持区域。

中原消防団本部 紹介



鹿島消防部長 田邊警護部長 布施副団長 小島団長 三上副団長 遠藤庶務部長 原広報部長

中原消防団本部

団 長	小島光儀
副 団 長	布施行雄
副 団 長	三上能樹
庶務部長	遠藤芳廣
警護部長	田邊晴輝
消防部長	鹿島 連
広報部長	原 充功

中原消防 90 周年を迎えて

中原消防団本部は、小島光儀団長以下7名で構成されています。

私達本部員全員が、各分団の分団長を経験して中原消防団の中核として活動しています。そして、常に中原消防署との緊密な連携により、毎月5分団の分団長会議を招集し、消防団活動の計画・立案を行い、全団員 222 名の活動を掌握しています。

毎年恒例行事の「中原消防団消防大会」は本年で実に 44 回の歴史を重ね、全団員が消防団精神の高揚とその技術の修得の為に長期間にわたる訓練、その成果を発揮する熱気溢れる素晴らしい大会となっております。

さらに隔年開催される「川崎市消防団操法大会」においても、輝かしい成績をおさめております。

現在、私達消防団本部としての課題は、単に火災時の対応のみならず、各町会・学校・事業所において、自主的防災訓練や DIG 訓練、救急講習を実施し、中原区民に対しての防災意識の啓蒙と大震災等の災害発生時に一人ひとりが自発的対処法を身につけてもらえるかということです。さらに近年、地球温暖化現象によるゲリラ豪雨・竜巻等の風水害から、区民 24 万余名の生命・財産をどのようにして守るのかという点にあります。

2010 年 3 月に横須賀線武蔵小杉駅の開業に伴い、周辺には高層ビルが立ち並びさらに再開発計画により街は大きく変わろうとしています。このような状況の下で昨今、全国的に消防団員の確保が困難になってきております。先輩諸氏が築いてきた「郷土は自分たちの手で守る」の精神を継承し、欠員なく後世に引き継ぐことが私達中原消防団全団員の使命と考えております。

分団紹介 中原分団

旧小杉班器具置場が中原消防団の本拠地では？

以前の小杉班器具置場は小杉御殿町2-97にあり、昭和54年まで使用していました。そこには他の分団では見られない階段式の火の見櫓があり、最上階には半鐘とサイレンが設置されていました。周囲には、郵便局や交番といった公共の施設も古くからあったことから、推測ですが、この場所が中原消防発祥の地、中原消防団(当時は川崎第5消防組)の本拠地であったのではないかと思います。

現在の地(小杉御殿町1-940-15)に移転されても、半鐘とサイレンはホース乾燥塔の上にステージを設けて設置してあります。15年程前までは、8月6日広島、8月9日長崎の原爆投下の時刻に合わせて、慰霊のサイレンを吹鳴し黙とうを捧げていました。

予防につとめる

消防団は火災の発生時には出場し、現場にかけつける事は当然ですが、私たちは火災を出さない事を地域の皆さまに周知徹底してもらう予防も重要と考え、夜間の車両巡回広報等は、春・秋の火災予防運動の時はもちろん器具点検時にも行うよう心がけています。

大震災対応訓練

東日本大震災の通信困難時にも分団として自主的に自転車で地域を巡回し、状況確認するなど気転をきかせて行動してきました。あの発災時の体験を忘れず、従来の放水訓練だけでなく救助や応急救護、心肺蘇生法など大震災を想定した訓練を実施しています。

大きく変わった宮内班器具置場

平成22年3月に宮内班器具置場に総務省から最新の消防車両が配置され、同年7月器具置場が移転(旧中原消防署宮内出張所)新築され、充実した装備となりました。しかし、宮内地区のはずれにある点等、不便なところも出てしまいました。

消防団員大募集

中原分団では地域の皆さまの生命・財産を守るため、より一層の努力してまいりたいと考えています。それには消防団員の確保が必要です。一人でも多くの団員を募集しております。私たちの仲間になりませんか。ご理解、ご協力のほど宜しくお願い致します。



分団紹介 大戸分団



平成 21 年 1 月 7 日 出初式後 大戸神社境内にて

中原・大戸・住吉・玉川・丸子の五分団にて編成されている中原消防団。その中で私達の大戸分団は南武線の武蔵中原駅と武蔵新城駅の周辺地域を活動範囲とし日夜警戒しています。分団内の編成は、下小田中 1～6 丁目を担当する下小田中班、上小田中 4～7 丁目を担当する神地班、上小田中 1～5 丁目を担当する大ヶ谷戸班、新城全域を担当する新城班と 4 つの班に分かれています。平成 27 年 4 月現在の人員は下小田中班 16 名、神地班 11 名、大ヶ谷戸班 11 名、新城班 9 名の計 47 名が消防団員として在籍しています。分団長をトップとし、副分団長 2 名、部長 4 名、班長 12 名、団員 28 名の構成となり様々な活動に参加しています。

主な活動内容としては火災現場における消火活動やその際に生じる交通整理や機材の準備・撤収。非常時に向けた訓練。各町会などのイベント時の警備活動などがあげられます。



平成 21 年 5 月 31 日 消防大会後 器具置場にて



平成 18 年 6 月 11 日 消防大会にて



平成 20 年 6 月 8 日 消防大会後 器具置場にて

大戸分団の活動として欠かすことができないものがあります。年に一度 6 月に開催される中原区消防大会に向けた訓練です。小型ポンプ操法と一般競技と小隊訓練があり、特に小型ポンプ操法は過去に 11 連覇した輝かしい歴史があり、選手のみならず指導員・OBの方々を含め一団となり訓練に励んでいます。近年では一般競技・小隊訓練にも力を入れています。

消防団員達は皆、日中は様々な職業に就いていますが、「郷土愛」の精神を胸に頑張っていきたいと思っています。

分団紹介 住吉分団



【住吉分団のあゆみ】

明治 22 年(1889) 木月、井田、荻宿、市ノ坪、今井、北加瀬の 6ヶ村が統合され住吉村が誕生その後、村の消防組が発足。

大正 14 年(1925) 中原村と合併中原消防組となり、旧住吉村は南という名称。

昭和 8 年(1933) 川崎市に編入川崎第五消防組と編成され、戦時下の川崎第五警防団、中原警防団を経て、昭和 22 年(1947) 川崎市中原消防団住吉分団となり現在にいたる。

現在の団員：66 名

分団長あいさつ

住吉分団 分団長 田 邊 昌 美

中原消防 90 周年誠にありがとうございます。

記念すべき節目に分団長として携わることができ、大変な名誉と存じ上げます。これも偏に中原消防諸先輩の皆様と現団員の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

私たち消防団員は災害から地域を守るのが使命です。

住吉分団は東日本大震災の経験より、災害時に即した技術(消火・救助・応急救護)と状況判断能力を高める訓練・研修を行い、有事の際に役に立てるよう備えています。また、地域においては自主防災訓練への参加、季節行事の協力などを行い住民との連携を深め、信頼され・愛される消防団を目指して活動して参ります。これからもご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

結びになりますが中原消防団、中原区地域の益々の発展を祈念しあいさつといたします。



鳥海副分団長 田邊分団長 鈴木副分団長

住吉分団各班の紹介

【歴代分団長】

初代・田辺又吉
2代・金子治郎
3代・横山悦章
4代・田辺英吉
5代・和田平作
6代・和田 朋
7代・中田 隆
8代・鳥海 一
9代・大谷金一
10代・横山良雄
11代・中野 勝
12代・深谷節男
13代・栗原昭夫
14代・三橋良雄
15代・金子光志
16代・大谷正勝
17代・伊藤幸雄
18代・小林敏一
19代・小島光儀
20代・三上能樹
21代・田邊昌美

【木月西班】『訓練への参加が、郷土への奉仕の第一歩』分団の中でも訓練参加率では他班に引けを取らない木月西班… 更なるスキルアップで、地域防災の盾に成らんことを目指して!!

【井田班】井田班の仲間は、皆愉快的な連中です。平均年齢が高くなってきたのですが、昨年に 1 名、今年は 2 名の新入団員が入ります。平均年齢も下がり、益々愉快的な仲間になりそうです。

【今井班】今井班は、町会単位の防災訓練、夜警などを積極的に行い「顔の見える消防団」「防災力の強い町会」を目指しています。

【木月東班】木月東班は元住吉駅東口側からのエリアで、春は住吉さくらも綺麗な所です。この美しい郷土のために私たちは日々訓練し、地域の皆様との連携を深め、災害に強い町づくりに努める所存です。



消防大会



小学校授業



【分団エンブレム】
分団カラーの緑の
フクロウ

【市ノ坪班】市ノ坪班は訓練好きで、熱い心の優しいイケメン揃い(?) です。災害時には団結力で頑張る覚悟です。女性団員も募集中です。

【荻宿班】最近各地で災害が起き、多数の被害がでています。それをふまえ荻宿町会も防災訓練を毎年行い、また、昨年より近隣町会との合同訓練も行っています。私たち荻宿班も町の安全のためにお手伝いしたいと思えます。

中原消防90周年にあたり

玉川分団 分団長 加藤 譲司

中原消防団が歴史と伝統の下、発足90周年の記念すべき年を迎えられたことに心からお祝いを申し上げます。

この永い間には、火災や水害など数多くの災害がありました。その際に自らの危険を顧みず災害に身を挺し、被害を最小限に食い止めるため、常に第一線に立って消防活動を行う消防魂。深い郷土愛で住民の生命と財産を守るという強い消防精神。それらを受け継いでこられた先人たちが地域住民の安全と秩序の保持に努めてこられたからこそ、この日を迎えられたと共に、それは中原区の偉大な財産だと思います。私たちはその良き伝統が受け継がれていることに自信と責任をもって、今後も活動してまいります。

最後に中原消防団及び区民の皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



完成当時の平間班器具置場

【平成4年完成の玉川分団平間班器具置場】

現在、この器具置場は毎月6日の装備品の器具点検、幹部会、年末特別警戒詰所、消防車両の待機場所、大規模災害時の分団員の待機場所等、玉川分団の活動拠点として運用中。

また先般の東日本大震災に学んで、大勢の帰宅困難者がでた場合は、トイレの貸し出し、要救護者の受け入れ等を検討しております。



団本部員と器具置場前で

「中原消防発足90周年の節目にあたり」

「あの日を忘れない」

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い生命が奪われました。そして、被災者を救おうと自らの危険を顧みず懸命に救助に向かう勇ましい消防団員の姿を映像や報道を通じて知らされ、我々団員の使命を強く感じました。

今、我々のまわりには火災はもとより、大地震や山々の噴火活動、異常気象による風水害など、自然の猛威と隣り合わせて生活していることも事実です。

有事に備え出動の際には慌てず焦らず、冷静に行動がとれるようこれからも訓練にあたる所存です。

丸子分団
部長 藤枝康利



「最高の消防分団です」

我々丸子分団は、第43回 中原区消防大会 小型ポンプ操法の部において優勝をしました。

なんと8年ぶりの栄冠です。

そして、その年には中原区の代表として川崎市大会への出場を果たしました。

4年前に出場した県大会、ここでの経験と実績が我々分団の自信となったことは間違いありません。

現在、団員数は中原区5分団の中で、最少数の分団ではありますが、団結心と行動力では他の分団に負けぬとの自負があります。

「郷土愛の精神」「自主自立の精神」を旨に地域防災の要として、また実践の場では、日頃の訓練の成果を発揮できるよう、これからも頑張っ参ります。

丸子分団
班長 田中照雄

中原消防団消防大会

	操法 優勝分団	指揮者	1番員	2番員	3番員	4番員	5番員	6番員
【第1回大会】S45. 10. 19	丸 子	石原 肇	内山裕次	高 巖	神宮護一	畑山寛治	佐藤千助	菅野孝弘

	操法 優勝分団	指揮者	1番員	2番員	3番員	4番員	一般競技 優勝分団
【第2回大会】S46. 10. 21	丸 子	佐藤重夫	坂井 勇	田辺四郎	中村 稠	重田 進	—
【第3回大会】S47. 10. 22	丸 子	伏見恒夫	村杉幸吉	榎本 源	稲見卓郎	丸山善司	—
【第4回大会】S49. 10. 19	住 吉	横山幸蔵	松原孝雄	小林敏一	田辺哲夫	中田 隆	大 戸

	操法 優勝分団	指揮者	1番員	2番員	3番員	一般競技 優勝分団	総合 優勝分団
【第5回大会】S 50. 10. 26	玉 川	原 光好	中村雅樹	小宮隆良	—	中 原	—
【第6回大会】S 51. 10. 31	丸 子	石原 肇	高 巖	野村正幸	岡 和男	住 吉	—
【第7回大会】S 53. 10. 14	玉 川	—	—	—	—	住 吉	—
【第8回大会】S 54. 12. 8	住 吉	青山幸久	小島光儀	田辺勝明	青山亮一	中 止	—
【第9回大会】S 55. 9. 28	大 戸	志村一勇	藤村清二	藤田 昭	松原芳夫	住 吉	—
【第10回大会】S 56. 10. 31	玉 川	山川忠行	野口守重	野口 昇	角田洋一	玉 川	—
【第11回大会】S 57. 8. 7	住 吉	横山良雄	大江 実	大谷正勝	金子光志	住 吉	—
【第12回大会】S 58. 8. 6	玉 川	寺島長四郎	加藤譲司	増田尚夫	野口守重	大 戸	—
【第13回大会】S 59. 8. 4	玉 川	戸田 進	押見利夫	手塚美弘	岸本敏昭	中 原	—
【第14回大会】S 60. 8. 3	中 原	佐藤千助	遠藤芳廣	原 修一	梶原 昭	大 戸	—
【第15回大会】S 61. 7. 26	丸 子	佐々木 卓	野村 強	倉形 昇	小林四郎	玉 川	—
【第16回大会】S 62. 6. 7	玉 川	鈴木幸三	横山鉄男	押見利夫	若島 稔	住 吉	—
【第17回大会】S 63. 6. 5	中 原	鈴木幹雄	村上可伸	山本 昇	佐久間秀行	住 吉	—
【第18回大会】H元. 6. 11	丸 子	倉形幸夫	飯村佳生	田中裕之	杉本義雄	住 吉	—
【第19回大会】H 2. 6. 3	丸 子	倉形 昇	橋本誠治郎	河野 博	横山秀彦	住 吉	大 戸
【第20回大会】H 3. 6. 2	住 吉	小島光儀	金子正夫	鳥海信明	鈴木敏一	中 原	住 吉
【第21回大会】H 4. 5. 10	大 戸	田中 実	鹿島 連	朝比奈清一	松原則富	中 原	大 戸
【第22回大会】H 5. 6. 6	大 戸	内藤正美	内藤浩由	橋本恒男	斉藤 巖	住 吉	住 吉
【第23回大会】H 6. 5. 8	大 戸	原 増男	鹿島快泰	小島和弘	猪股昌美	住 吉	大 戸
【第24回大会】H 7. 6. 4	大 戸	青木 猛	鹿島秀樹	内藤雅夫	志村時治	住 吉	大 戸
【第25回大会】H 8. 6. 9	大 戸	布施行雄	内藤恭正	竹村久之	田辺義徳	大 戸	大 戸
【第26回大会】H 9. 6. 8	大 戸	朝比奈清一	市川日登美	原 孝三	小宮隆一	住 吉	大 戸
【第27回大会】H 10. 6. 7	大 戸	鹿島 連	小池 治	金原康雄	内藤浩由	大 戸	大 戸
【第28回大会】H 11. 6. 6	大 戸	橋本恒男	工藤由美雄	佐藤雅章	鈴木啓二	住 吉	大 戸
【第29回大会】H 12. 6. 11	大 戸	松原則富	国友英壯	小宮隆一	井上新一	中 原	大 戸
【第30回大会】H 13. 6. 3	大 戸	山本静一	原 清郊	内田 実	原 武文	住 吉	住 吉
【第31回大会】H 14. 6. 2	大 戸	原 孝三	内藤恭正	工藤由美雄	鹿島快泰	住 吉	住 吉
【第32回大会】H 15. 6. 7	中 原	寫田敏行	嶋田直樹	河野靖一	野口俊明	住 吉	住 吉
【第33回大会】H 16. 6. 6	中 原	井出悦夫	平野智憲	久野 正	会澤高生	住 吉	住 吉
【第34回大会】H 17. 6. 12	大 戸	佐藤雅章	鹿島弘久	広瀬淳一	草間茂人	大 戸	大 戸
【第35回大会】H 18. 6. 11	丸 子	井上 衛	畑 昭仁	藤枝康利	矢口正人	住 吉	大 戸

	操法 優勝分団	指揮者	1番員	2番員	3番員	一般競技 優勝分団	総合 優勝分団
【第36回大会】H19. 6. 10	住 吉	深谷賢司	木村浩一	市川義次	長瀬博明	中 原	住 吉
【第37回大会】H20. 6. 8	大 戸	内藤正美	国友英壯	高橋則広	原 正俊	大 戸	大 戸
【第38回大会】H21. 5. 31	住 吉	佐野和彦	土屋昌平	横堀真琴	野崎悟史	住 吉	住 吉
【第39回大会】H22. 6. 13	大 戸	小宮隆一	井上莊一	井上宗高	鹿島弘久	住 吉	住 吉
【第40回大会】H23. 6. 12	大 戸	田辺義徳	横山邦義	原 清郊	成田幸久	大 戸	大 戸
【第41回大会】H24. 6. 10	大 戸	大場 隆	国友英壯	原 清郊	名取聡嗣	住 吉	大 戸
【第42回大会】H25. 6. 9	大 戸	工藤由美雄	小泉徳浩	渡邊貴彦	山田定喜	大 戸	大 戸
【第43回大会】H26. 6. 8	丸 子	田中照雄	瀧 光樹	佐藤 仁	荒川博之	住 吉	大 戸
【第44回大会】H27. 5. 31	大 戸	草間茂人	松浪健太	長島秀成	徳江 勲	大 戸	大 戸



【第34回大会】大戸分団



【第35回大会】丸子分団



【第36回大会】住吉分団



【第37回大会】大戸分団



【第38回大会】住吉分団



【第39回大会】大戸分団



【第40回大会】大戸分団



【第41回大会】大戸分団



【第42回大会】大戸分団



【第43回大会】丸子分団



【第44回大会】大戸分団

神奈川県消防操法大会

ポンプ自動車7名操法

	分団名	指揮者	1番員	2番員	3番員	4番員	5番員	6番員
【第5回大会】S 30. 10. 4	住吉	和田平作	中田 隆	原川正雄	大谷金一	大箭兵治	永塚 勝	中島 清
【第8回大会】S 33. 10. 5	大戸	小島鎌吉	出竹正一	石井雄次郎	白井庄八	宮田政二	田辺大上	内藤幸男
【第13回大会】S 38. 10. -	中原	鈴木金蔵	堀川太郎	遠藤昭次	吉房長治	山口正末	小山勇雄	原 秀男

小型ポンプ5名操法

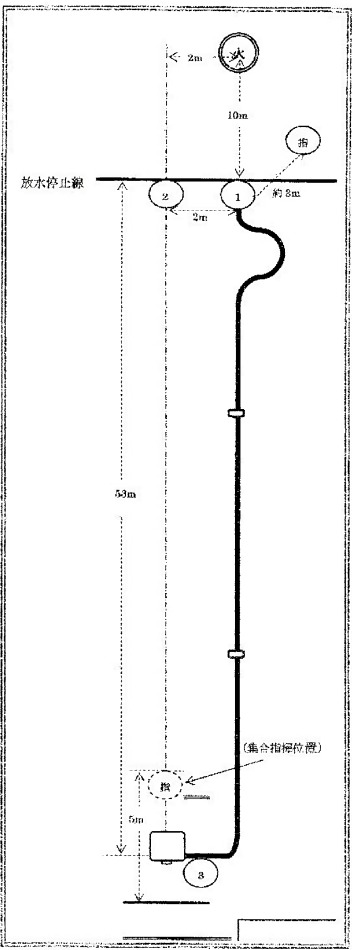
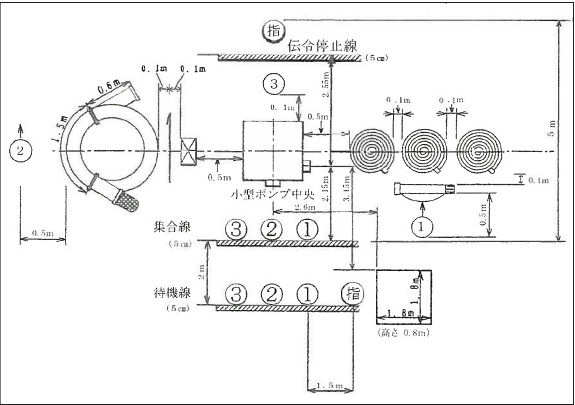
	分団名	指揮者	1番員	2番員	3番員	4番員
【第22回大会】S 47. 8. 10	丸子	石原 肇	内山裕次	神宮護一	佐藤千助	高 巖

小型ポンプ操法

	分団名	指揮者	1番員	2番員	3番員
【第29回大会】S 54. 8. 10	玉川	山川忠行	野口守重	野口 昇	角田洋一
【第35回大会】S 61. 8. 1	住吉	伊藤勝敬	小島光儀	金子正夫	帆刈正之
【第39回大会】H 6. 7. 28	大戸	田中 実	鹿島 連	朝比奈清一	松原則富
【第43回大会】H 14. 7. 24	中原	原 健二	小杉政雄	坂西利秋	三堀 武
【第47回大会】H 22. 7. 27	丸子	藤枝康利	田中照雄	佐藤 仁	矢口正人



【第47回 神奈川県大会】丸子分団
矢口3番員 田中1番員 藤枝指揮者 佐藤2番員



川崎市消防団操法大会

	分団名	指揮者	1番員	2番員	3番員
【第1回大会】H 6. 9. 4	大 戸★	原 増男	鹿島快泰	小島和弘	猪股昌美
	住 吉	野村 浩	石川 精	林 一	伊藤照明
【第2回大会】H 8. 9. 8	大 戸★	猪股利夫	内藤恭正	竹村久之	田辺義徳
	中 原	梶原 昭	小原唯和	今井 均	井出悦夫
【第3回大会】H 10. 9. 6	大 戸★	鹿島 連	鹿島秀樹	金原康雄	内藤浩由
	中 原	光武 繁	三堀 武	畠田敏行	原 健二
【第4回大会】H 12. 9. 10	大 戸	松原則富	国友英壯	小宮隆一	井上新一
	丸 子	清水敬介	井上 衛	藤枝康利	田中裕之
【第5回大会】H 14. 9. 8	大 戸	原 孝三	内藤恭正	工藤由美雄	鹿島快泰
	玉 川	出口良弘	越智利幸	木村武三	高橋孝儀
【第6回大会】H 16. 9. 5	中 原	井出悦夫	平野智憲	久野 正	會澤高生
	住 吉★	金子正夫	深谷賢司	安斎龍也	前田則和
【第7回大会】H 18. 9. 10	丸 子	井上 衛	畑 昭仁	藤枝康利	矢口正人
	大 戸★	猪股昌美	名取聡嗣	橋之口泰央	市橋利彦
【第8回大会】H 20. 9. 14	大 戸★	内藤正美	国友英壯	高橋則広	原 正俊
	中 原	安藤直明	原 典之	大橋貞幸	高木錦也
【第9回大会】H 22. 9. 12	大 戸	小宮隆一	井上莊一	井上宗高	鹿島弘久
	丸 子	田中裕之	大高淳司	荒川博之	水野勝行
【第10回大会】H 24. 9. 9	大 戸	大場 隆	国友英壯	原 清郊	名取聡嗣
	玉 川	持田 浩	所 敬芳	横溝秀喜	長谷川正美
【第11回大会】H 26. 9. 7	丸 子	田中照雄	瀧 光樹	佐藤 仁	荒川博之
	住 吉	鈴木正基	伊藤大輔	峯岸 真	大山宏光

★は最優秀賞



【第7回大会】丸子分団



【第8回大会】中原分団



【第9回大会】大戸分団



【第9回大会】丸子分団



【第10回大会】大戸分団



【第10回大会】玉川分団



【第11回大会】丸子分団



【第11回大会】住吉分団

中原消防団歴代幹部一覧

	団 長	副団長	副団長	庶務部長	警護部長	消防部長	広報部長	中原分団長	大戸分団長	住吉分団長	玉川分団長	丸子分団長
昭和22	市川 郁	田辺 亘	小泉忠右之門	原 安造	—	—	—	西村義正	市川信一	田辺又吉	小宮隆太郎	白井棟吉
23	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	野口洋一	〃
25	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃	〃	—	—	—	原 省作	〃	金子治郎	諏訪部卯太郎	〃
28	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	重田儀一
30	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
31	〃	〃	〃		—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
32	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
33	〃	〃	金子治郎	〃	—	—	—	〃	小島鎌吉	横山悦章	〃	〃
34	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
35	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
36	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	田辺英吉	〃	〃
37	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
38	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
39	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
40	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
41	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
42	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	〃
43	〃	〃	〃	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	矢作富二雄
44	田辺 亘	金子治郎	原 省作	〃	野口東郷	近藤秀雄	—	伊藤忠治	〃	〃	〃	〃
45	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
46	〃	〃	〃	〃	〃	—	—	金子徳雄	〃	〃	〃	〃
47	〃	〃	〃	田辺英吉	〃	前口 静	—	〃	〃	和田平作	〃	〃
48	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	寫田義久	〃	〃	〃	〃
49	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
50	金子治郎	原 省作	諏訪部卯太郎	〃	〃	石井栄一	—	伊藤 茂	〃	〃	斉藤東作	〃
51	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
52	原 省作	田辺英吉	小島鎌吉	和田平作	〃	矢作富二雄	—	〃	出竹正一	和田 朋	〃	田辺力助
53	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
54	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	井上 茂	〃	原 光好	〃
55	小島鎌吉	〃	矢作富二雄	〃	伊藤 茂	原 光好	—	矢沢橘郎	〃	中田 隆	沼田盛次	〃
56	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	宮田政二	〃	〃	〃
57	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
58	矢作富二雄	和田平作	原 光好	中田 隆	矢沢橘郎	宮田政二	—	吉房正雄	田邊大上	鳥海 一	中野宗一郎	鷹野政義
59	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	大谷金一	〃	〃
60	〃	〃	宮田政二	〃	吉房正雄	中野宗一郎 原 光一	—	鈴木寅男	〃	〃	原 光一 加藤庄太郎	〃

	団 長	副団長	副団長	庶務部長	警護部長	消防部長	広報部長	中原分団長	大戸分団長	住吉分団長	玉川分団長	丸子分団長
61	和田平作	宮田政二	鷹野政義	中田 隆	原 光一	鈴木寅男	—	渡辺久雄	松原重代	大谷金一	加藤庄太郎	石原 肇
62	〃	中田 隆	松原重代	石原 肇	〃	〃	—	〃	齊藤文男	〃	〃	高 巖
63	〃	〃	〃	〃	渡辺久雄	加藤庄太郎	—	原 繁義	〃	横山良雄	田中登喜夫	〃
平成元	中田 隆	松原重代	加藤庄太郎	〃	横山良雄	原 繁義	—	黒田幹夫	〃	中野 勝	〃	〃
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	西村元一	〃	深谷節男	〃	〃
4	松原重代	加藤庄太郎	石原 肇	横山良雄	原 繁義	齊藤文男	—	〃	石井倫太郎	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃	〃	齊藤文男	西村元一	—	原 修一	内藤雅光	〃	〃	〃
7	石原 肇	横山良雄	高 巖	原 修一	田中登喜夫	内藤雅光	—	佐藤千助	安藤 進	〃	野口清彰	中村久雄
8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	原 明博	栗原昭夫	石川三吉	金子年秀
9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
10	横山良雄	高 巖	原 修一	内藤雅光	〃	栗原昭夫	—	嵩田忠夫	朝山秀男	三橋良雄	〃	重田 進
11	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	〃	〃
13	高 巖	原 修一	内藤雅光	栗原昭夫 村杉幸吉	〃	村杉幸吉 三橋良雄	—	川野正久	布施 一	〃 金子光志	〃	田邊四郎
14	〃	〃	〃	村杉幸吉	〃	三橋良雄	—	〃	〃	〃	〃	〃
15	〃	〃	〃	〃	〃 三橋良雄	〃 石川三吉	—	〃	田中 実	大谷正勝	〃 生坂征一	佐々木 卓
16	内藤雅光	〃	村杉幸吉	大谷正勝	田中 実	石川三吉	—	〃	原 増男	伊藤幸雄	生坂征一	〃
17	〃	〃	大谷正勝	田中 実	佐々木 卓	生坂征一	川野正久	大塚義春	〃	小林敏一	乙訓博道	稲見卓郎
18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
19	大谷正勝	〃	田中 実	生坂征一	〃	川野正久	小林敏一	遠藤芳廣	布施行雄	小島光儀	〃	横山秀彦
20	〃	〃	〃	〃	〃	〃	小島光儀	〃	〃	三上能樹	〃	〃
21	〃	〃	〃	〃	〃 川野正久	〃 小島光儀	〃 横山秀彦	〃	〃	〃	中村雅樹	〃 倉形 昇
22	田中 実	生坂征一	川野正久	小島光儀	布施行雄	三上能樹	〃	〃	内藤正美	田邊昌美	福田忠夫	田邊晴輝
23	〃	〃	〃	〃	〃	〃	田邊晴輝	〃	天野宣雄	〃	原 充功	佐藤正義
24	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
25	生坂征一	小島光儀	布施行雄	三上能樹	田邊晴輝	遠藤芳廣	原 充功	成瀬 朗	〃	〃	戸田 進	〃
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	鹿島 連	〃	加藤譲司	〃
27	小島光儀	布施行雄	三上能樹	遠藤芳廣	〃	鹿島 連	〃	〃	山本静一	〃	〃	〃

叙勲受章者

受章年月日	勲位	所属	階級	氏名
昭和43年4月29日	勲7等青色桐葉章	中原	分団長	原省作
昭和43年11月3日	勲6等単光旭日章	本部	副団長	田辺亘
昭和43年11月3日	勲7等瑞宝章	中原	部長	黒田市郎
昭和44年11月3日	勲7等瑞宝章	中原	団員	原平八
昭和45年4月29日	勲7等青色桐葉章	中原	分団長	伊藤忠治
昭和45年4月29日	勲7等青色桐葉章	中原	副分団長	金子徳雄
昭和45年11月3日	勲7等青色桐葉章	大戸	分団長	小島鎌吉
昭和46年4月29日	勲7等瑞宝章	中原	部長	寫田義久
昭和46年4月29日	勲7等瑞宝章	中原	班長	安藤安次郎
昭和46年4月29日	勲7等瑞宝章	中原	班長	野口栄吉
昭和46年11月3日	勲6等単光旭日章	本部	副団長	金子治郎
昭和47年11月3日	勲7等青色桐葉章	大戸	副分団長	出竹正一
昭和47年11月3日	勲7等瑞宝章	玉川	副分団長	町田幸
昭和48年11月3日	勲7等瑞宝章	中原	班長	堀川太郎
昭和49年11月3日	勲6等瑞宝章	住吉	副分団長	帆刈義正
昭和50年4月29日	勲7等瑞宝章	中原	部長	原周作
昭和52年11月3日	勲7等青色桐葉章	本部	分団長	石井榮一
昭和52年11月3日	勲7等瑞宝章	玉川	分団長	齋藤東作
昭和53年11月3日	勲7等青色桐葉章	本部	分団長	野口東郷
昭和54年4月29日	勲7等青色桐葉章	大戸	分団長	井上茂
昭和55年11月3日	勲7等青色桐葉章	本部	副団長	田辺英吉
昭和58年4月29日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	伊藤茂
昭和58年11月3日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	原光好
昭和59年11月3日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	矢澤橘郎
昭和60年4月29日	勲6等単光旭日章	本部	団長	矢作富二雄
昭和60年11月3日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	中野宗一郎
昭和61年1月16日	従六位勲5等双光旭日章	本部	団長	金子治郎
昭和61年11月3日	勲7等青色桐葉章	本部	副団長	鷹野政義
昭和62年4月29日	勲6等単光旭日章	本部	副団長	宮田政二
昭和63年4月29日	勲6等瑞宝章	住吉	分団長	大谷金一
昭和63年11月3日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	吉房正雄
平成元年11月3日	勲6等単光旭日章	本部	団長	和田平作
平成2年4月29日	勲6等瑞宝章	大戸	分団長	田邊大上
平成4年4月29日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	鈴木寅男
平成4年11月3日	勲6等単光旭日章	本部	団長	中田隆
平成5年4月29日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	原光一
平成7年11月3日	勲6等単光旭日章	本部	団長	松原重代
平成12年4月29日	勲6等瑞宝章	本部	分団長	渡辺久雄
平成12年11月3日	勲6等単光旭日章	本部	団長	石原肇
平成13年11月3日	勲6等単光旭日章	本部	団長	横山良雄
平成14年11月3日	勲6等瑞宝章	本部	副団長	加藤庄太郎
平成16年11月3日	瑞宝単光章	本部	分団長	齊藤文男
平成17年4月29日	瑞宝単光章	大戸	分団長	石井倫太郎
平成17年11月3日	旭日双光章	本部	団長	高巖
平成19年11月3日	瑞宝単光章	本部	副団長	村杉幸吉
平成21年4月29日	瑞宝単光章	大戸	分団長	安藤進
平成23年4月29日	瑞宝単光章	本部	団長	大谷正勝
平成24年4月29日	瑞宝単光章	中原	分団長	黒田幹夫
平成24年11月3日	瑞宝単光章	本部	分団長	石川三吉
平成26年11月3日	瑞宝単光章	本部	団長	内藤雅光
平成27年3月1日	瑞宝単光章	中原	副分団長	遠藤昭次
平成27年4月29日	瑞宝単光章	本部	副団長	川野正久

褒章受章者

受章年月日	章 別	所 属	階 級	氏 名
昭和 30年 3 月 3 日	藍 綬 褒 章	本 部	団 長	市 川 郁
平成 16年 4 月 29日	藍 綬 褒 章	本 部	副 団 長	原 修 一
平成 21年 4 月 29日	藍 綬 褒 章	本 部	分 団 長	佐々木 卓
平成 21年 11月 3 日	藍 綬 褒 章	本 部	副 団 長	田 中 実
平成 22年 11月 3 日	藍 綬 褒 章	本 部	分 団 長	横 山 秀 彦
平成 25年 11月 3 日	藍 綬 褒 章	本 部	副 団 長	小 島 光 儀
平成 26年 4 月 29日	藍 綬 褒 章	本 部	副 団 長	布 施 行 雄
平成 27年 4 月 29日	藍 綬 褒 章	本 部	副 団 長	三 上 能 樹

消防庁長官表彰(永年勤続功労章)受章者

受章年月日	章 別	所 属	階 級	氏 名
昭和 25年 8 月 1 日	国 家 消 防 庁 功 労 章		団 長	市 川 郁
昭和 31年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	小 泉 忠右エ門
昭和 41年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	田 辺 亘
昭和 42年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	金 子 治 郎
昭和 43年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	中 原	分 団 長	原 省 作
昭和 49年 3 月 1 日	永 年 勤 続 功 労 章	住 吉	副分団長	帆 刈 義 正
昭和 52年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	石 井 榮 一
昭和 52年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	副分団長	井 上 茂 郷
昭和 53年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	野 口 東 郷
昭和 55年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	田 辺 英 吉
昭和 55年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	伊 藤 茂
昭和 56年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	中 原	副分団長	矢 澤 橘 郎
昭和 57年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	和 田 平 作
昭和 57年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	原 光 好
昭和 58年 3 月 2 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	矢 作 富二雄
昭和 58年 3 月 2 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	分 団 長	宮 田 政 二
昭和 59年 3 月 9 日	永 年 勤 続 功 労 章	玉 川	分 団 長	中 野 宗一郎
昭和 59年 3 月 9 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	分 団 長	田 邊 大 上
昭和 60年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	吉 房 正 雄
昭和 60年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	鷹 野 政 義
昭和 61年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	鈴 木 寅 男
昭和 61年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	原 光 一
昭和 62年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	住 吉	分 団 長	大 谷 金 一
昭和 62年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	中 原	分 団 長	渡 辺 久 雄
昭和 63年 3 月 9 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	松 原 重 代
昭和 63年 3 月 9 日	永 年 勤 続 功 労 章	玉 川	分 団 長	加 藤 庄 太 郎
平成 元年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	中 田 隆
平成 元年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	石 原 肇
平成 2 年 3 月 8 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	副分団長	石 井 倫 太 郎
平成 2 年 3 月 8 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	副分団長	内 藤 重 一
平成 3 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	中 原	分 団 長	黒 田 幹 夫
平成 4 年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	横 山 良 雄
平成 4 年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	分 団 長	齊 藤 文 男
平成 4 年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	分 団 長	高 巖
平成 5 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	原 繁 義
平成 5 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	住 吉	副分団長	高 梨 久 義
平成 6 年 3 月 2 日	永 年 勤 続 功 労 章	中 原	分 団 長	西 村 元 一
平成 7 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	玉 川	分 団 長	田 中 登 喜 夫
平成 7 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	副分団長	井 上 利 春

受章年月日	章 別	所 属	階 級	氏 名
平成 7 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	玉 川	副分団長	野 口 清 彰
平成 7 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	副分団長	中 村 久 雄
平成 8 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	中 原	分 団 長	佐 藤 千 助
平成 8 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	大 戸	分 団 長	安 藤 進
平成 8 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	住 吉	分 団 長	深 谷 節 男
平成 9 年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	玉 川	分 団 長	石 川 三 吉
平成 9 年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	住 吉	分 団 長	栗 原 昭 夫
平成 10 年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	分 団 長	金 子 年 秀
平成 10 年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	住 吉	副分団長	三 橋 良 雄
平成 11 年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	原 修 一
平成 12 年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	分 団 長	重 田 進
平成 12 年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	副分団長	丸 山 善 司
平成 13 年 3 月 8 日	永 年 勤 続 功 労 章	玉 川	副分団長	生 坂 征 一
平成 14 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	村 杉 幸 吉
平成 14 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	分 団 長	田 邊 四 郎
平成 15 年 3 月 5 日	永 年 勤 続 功 労 章	住 吉	分 団 長	金 子 光 志
平成 16 年 3 月 4 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	分 団 長	佐々木 卓
平成 18 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	川 野 正 久
平成 18 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	分 団 長	稲 見 卓 郎
平成 19 年 3 月 2 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	団 長	内 藤 雅 光
平成 19 年 3 月 2 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	大 谷 正 勝
平成 19 年 3 月 2 日	永 年 勤 続 功 労 章	中 原	分 団 長	大 塚 義 春
平成 20 年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	副 団 長	田 中 実 道
平成 20 年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	玉 川	分 団 長	乙 訓 博 道
平成 20 年 3 月 7 日	永 年 勤 続 功 労 章	丸 子	分 団 長	横 山 秀 彦
平成 23 年 3 月 3 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	小 島 光 儀
平成 24 年 3 月 8 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	布 施 行 雄
平成 25 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	三 上 能 樹
平成 27 年 3 月 6 日	永 年 勤 続 功 労 章	本 部	分 団 長	遠 藤 芳 廣



永年勤続功労章
消防庁長官表彰



50年勤続章
神奈川県消防協会表彰



30年勤続章
日本消防協会表彰



永年勤続功労章20年
神奈川県知事表彰



永年勤続章15年
川崎市市長表彰



功績章
日本消防協会表彰



功績章
日本消防協会表彰



精績章
日本消防協会表彰



20年勤続章
神奈川県消防協会表彰

団員名簿

本 部		中 原 分 団		大 戸 分 団		住 吉 分 団		玉 川 分 団		丸 子 分 団	
階 級	氏 名	階 級	氏 名	階 級	氏 名	階 級	氏 名	階 級	氏 名	階 級	氏 名
団 長	小 島 光 儀	分 団 長	成 瀬 朗	分 団 長	山 本 静 一	分 団 長	田 邊 昌 美	分 団 長	加 藤 譲 司	分 団 長	佐 藤 正 義
副 団 長	布 施 行 雄	副 分 団 長	原 健 二	副 分 団 長	松 原 則 富	副 分 団 長	鈴 木 照 明	副 分 団 長	齋 藤 潔	副 分 団 長	野 村 謙 二
副 団 長	三 上 能 樹		西 村 和 也		原 孝 三		鳥 海 信 明		出 口 良 弘		井 上 衛
庶務部長	遠 藤 芳 廣	部 長	寫 田 敏 行	部 長	猪 股 昌 美	部 長	深 谷 賢 司	部 長	鈴 木 幸 三	部 長	田 中 裕 之
警護部長	田 邊 晴 輝		三 堀 武		小 宮 隆 一		金 子 正 夫		野 口 芳 正		藤 枝 康 利
消防部長	鹿 島 連		小 杉 政 雄		佐 藤 雅 章		石 川 精		中 野 宗 博		矢 口 正 人
広報部長	原 充 功		野 口 俊 明		工 藤 由 美 雄		福 岡 秀 雄		山 川 栄 一	班 長	鈴 木 基 弘
		班 長	安 藤 直 明	班 長	内 藤 浩 由	班 長	安 斎 龍 也	班 長	柳 沢 芳 信		塚 本 栄 二
			坂 西 利 秋		笹 原 悟		鈴 木 敏 一		叶 谷 勝 則		松 川 正 二 郎
			峯 岸 雅 宏		田 邊 義 徳	班 長	林 一		木 村 武 三		佐 藤 仁
		団 員	齋 藤 淳		大 場 隆		佐 野 和 彦	団 員	和 泉 誠 一		田 中 照 雄
			河 野 靖 一		井 上 莊 一		田 口 敏 彦		持 田 浩		水 野 勝 行
			渡 邊 保		鹿 島 快 泰		和 田 博 史		横 溝 秀 喜		榎 本 猛
			渡 辺 康 弘		草 間 茂 人		女 屋 敏		越 智 利 幸		大 高 淳 司
			原 典 之		鹿 島 秀 樹		青 柳 幸 雄		高 橋 孝 儀		荒 川 博 之
			大 橋 貞 幸		市 川 日 登 見		嵯 峨 野 雄 一		所 敬 芳	団 員	矢 作 展 利
			小 原 唯 和		原 清 郊		野 崎 悟 史		野 口 清 一		松 田 光 司
			嶋 田 直 樹		小 林 富 幸		高 橋 俊 悦		高 橋 恒 行		白 井 正 宏
			久 野 正	団 員	市 橋 利 彦		市 川 義 次	団 員	長 谷 川 正 美		青 木 哲 也
			平 野 智 憲		内 田 実		田 口 眞 弓		嘉 味 田 朝 光		越 前 一 興
			原 和 弘		国 友 英 壯		鈴 木 正 基		岡 田 周 太 郎		谷 昭 廣
			長 命 卓 也		廣 瀬 淳 一		伊 藤 照 明		吉 嶺 一 人		山 田 幸 治
			古 田 武 志		名 取 聡 嗣		青 山 透		丸 本 秀 男		瀧 光 樹
			高 木 錦 也		今 野 龍 一		大 山 宏 光		西 村 政 夫		山 本 喜 道
			中 山 恭 成		原 正 俊	団 員	高 林 宏 司		川 本 学		稲 葉 啓 二
			倉 島 健 剛		小 島 徹		安 孫 子 俊 彦		宮 前 尚 子		伊 藤 隆 浩
			遠 藤 卓 弥		鹿 島 弘 久		高 橋 和 美		野 口 恭 之		椎 名 義 之
			原 隆 昌		井 上 宗 高		阿 部 正		大 原 甫		往 田 和 章
			山 川 哲 史		橋 之 口 泰 央		青 山 育 雄		藤 館 一 行		池 上 陽 子
			茂 木 常 夫		関 弘 子		米 谷 光 悦		原 直 樹		茂 晃 樹
			古 田 悦 子		長 島 秀 成		長 瀬 守 之		渡 邊 昭 一		渡 邊 路 子
			石 井 秀 吾		高 橋 則 広		篠 原 武		岩 澤 由 紀 夫		
			上 原 修		加 藤 貴 之		柳 下 洋 一		根 本 研 二		
			小 川 育 也		山 田 定 喜		松 倉 貴 博		河 添 公 夫		
			大 橋 久 美 子		成 田 幸 久		横 山 芳 春				
			三 浦 清		横 山 邦 義		田 口 博 隆				
			大 橋 敏 也		渡 辺 貴 彦		遠 藤 哲 哉				
			小 川 敏 央		栗 野 伸 夫		吉 田 祥				
					徳 江 勲		中 山 京 子				
					力 丸 敬 子		長 瀬 博 明				
					小 泉 徳 浩		藤 井 正 信				
					市 川 慎 一 郎		木 村 浩 一				
					田 島 道 男		横 堀 真 琴				
					内 藤 寛		土 屋 昌 平				
					田 中 裕		唐 澤 充				
					小 宮 利 正		中 山 亜 子				
					松 浪 健 太		橋 本 聡				
							小 栗 直				
							林 大 輔				
							峯 岸 真				
							北 村 憲 祐				
							富 澤 幸 男				
							押 本 吉 司				
							大 谷 昌 広				
							宮 崎 慎 也				
							阿 部 年 一				
							横 尾 拓 人				
							伊 藤 大 輔				
							小 森 良 太				
							佐 々 木 義 信				
							末 永 直				
							和 田 祐 征				
							横 山 涉				
							今 泉 英 彬				
							横 井 宏 祐				
							菅 原 丈				

編集後記

大正 14 年(1925 年)9 月に現在の中原消防団を構成する組織である中原消防組が発足して、本年で 90 年という大きな節目を迎えました。

激動の時代を経て先輩諸氏が永きにわたり受け継いでこられました「郷土愛」の精神は消防団活動の根幹であり、中原消防団の素晴らしい伝統だということを今回の編集作業にあたり、改めて認識をいたしました。

本 90 年史が先輩達の築かれた業績を次代に引き継ぎ、「郷土愛」の精神を後世まで受け継ぐことに少しでもお役に立てば幸いです。

私達団員はこれからも、より充実した地域防災の要として信頼される消防団を目指して活動してまいります。

最後になりましたが、多くの皆様から原稿、資料等をいただきました事に心より御礼申し上げます。

中原消防団 広報部長 原 充功

中原消防 90 周年記念史編集委員会

団 長 小島光儀
副 団 長 布施行雄
副 団 長 三上能樹
庶務部長 遠藤芳廣
警護部長 田邊晴輝
消防部長 鹿島 連
広報部長 原 充功

【各分団編集委員】
坂西利秋 (中原分団)
峯岸雅宏 (中原分団)
原 清郊 (大戸分団)
大場 隆 (大戸分団)
安斎龍也 (住吉分団)
田口眞弓 (住吉分団)
横山芳春 (住吉分団)
高橋恒行 (玉川分団)
大高淳司 (丸子分団)
山本喜道 (丸子分団)

【協 力】
若島 稔
畑 昭仁
猪股昌美 (大戸分団)
鹿島秀樹 (大戸分団)

【中原消防署】
大塚彰徳 (予防課庶務係長)
天童 勲 (予防課庶務主任)



中原消防 90 周年記念史「郷土愛」

平成 27 年 9 月 16 日発行

編集・発行 川崎市 中原消防団

印刷 川崎三省堂

